

# ハケってなんですか？ 武蔵野台地と水から紐解く人 の暮らしはどうみえますか？

2018.12.7 (金) 19:00-21:00

東京学芸大図書館カフェ note cafe

一般 ¥1500 / 学生 ¥500

3万年の時間をふりかえりながら、一緒に考えましょう

トークゲスト

水越てるみ 国分寺市民団体ミズモリ団

足立とも与 東京学芸大学学生

ファシリテーター

椿真智子 東京学芸大学教授

【お申し込み】



まちのカルチャーカフェ主宰の藤井です。大学には面白い研究がたくさんあります。地域の方々、そして学生の方々にも、幅広く大学の資産を活用いただきたい。そんな想いでスタートしたのが、この取り組みです。大学の先生が、今一番ワクワクしていること。好きなこと。それをみなさんと一緒に紐解きながら面白がりたいと思っています。

そして、地域と大学の力が出会う場所にもできたらと考えています。きっと、お互いの力を合わせると、もっといろいろなことができるのではないのでしょうか？より活力のある大学をつくっていくためにも、そのような交流の場はますます必要となっていくはずです。

もちろんこれは、授業ではありません。飲み物片手に、思い思いの楽しみ方をしていただくことが理想です。予期せぬ発見や出会いがある場所にしていけたらと思います。

今回は、みんなで考えましょう。

キーワードは、「武蔵野台地」と「水」。

水は旧石器時代から武蔵野台地に人を引き付けてきました。弥生時代にはあまり人はいなかったみたいだけど、古墳時代になって再び人を引き付け、ついには国府と国分寺が造られました。中世には争いもありましたが、江戸時代になると玉川上水が造られ、台地の上に水のネットワークが生まれました。

そんな過去をふりかえりながら、わたしたちの暮らしや武蔵野台地の未来を考えましょう。

主催：まちのカルチャーカフェ・プロジェクト

協力：東京学芸大学、東京学芸大図書館カフェnote café、はげの学校